

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年9月30日
- 事業名 : 地域愛を向上し差別に負けない強さを育てる事業
- 資金分配団体 : 一般財団法人 大阪府人権協会
- 実行団体 : 一般財団法人 堺市人権協会

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
地域の魅力発見(①さいぼしづくり②まちあるき)	イベント実施後のアンケート	地域に対してプラスにとれるアンケートでの発言を6割程度得る	2022年11月頃	企画実施に向け調整中	2
地域を深く知る・背景を伝える (①人権問題学習 (②語り部:歴史、施設、団体 (③地域のフィールドワークの実施)	人権問題学習実施後のアンケート	地域の高校性が今でも地域に差別があることを知っている と取れるアンケートでの発言を9割程度得る	2022年11月頃	人権問題学習の実施に向けて調整中	2
どないしまっかゲーム(差別自称疑似体験ゲーム)	どないしまっかゲームで自分の意見が言える状態	差別に対して自分の意見を言える	2023年	未実施	2
小中学校・隣保館との協働・サポート体制	小中学校や隣保館の「ラボ(学習支援)」についての認	職員の半数以上が知っている	2022年9月	小中学校・隣保館への活動周知・理解・協働へ	2

① 小中学校・隣保館への活動周知・理解・協働への呼びかけ	知度			の呼びかけ実施済み	
小中学校・隣保館・事務局との連絡会の設立 ① 地域マップ作製 ② 旗作成)	連絡会への協力が増えている	協力してくれる団体数	2023年	連絡会の設立に向け調整中	4
社会福祉法人・民生委員・自治会など他団体への活動周知・理解・協働の呼びかけ ① 協働・サポート体制の拡 ② 連絡会の拡大、連携強化 ③ 地域施設クイズ作成	●こどもを見守る協働体として地域マップに掲載の許可が得られている ●こどもが相談できる団体として旗を掲げている	旗を掲げる団体、地域マップ掲載団体の数	2023年	未実施	4
こどもの力を伸ばす ① 学習支援ラボの実施 ② 地域に関わるボランティアを募る	●ラボへの参加頻度	●ラボに本登録している人数	2021年 10月	学習支援ラボ実施中 地域に関わるボランティアを募る（達成済み）	1
学習を継続するためのモチベーション支援	●こども本人に学習を継続意思がある ●小中学校の教師に聞くこどもの学習意欲の向上 ●保護者に聞くこどもの学習意欲の向上	●テストの点数が上がっている（生徒・保護者への聞き取り） ●授業態度の向上（教師への聞き取り）	2021年～ 実施中	こども達からテストの点数や学習の進捗について聞くことができています	2
ボランティアを卒業生から募る	ラボ卒業生がボランティア登録しているか	卒業生のボランティア登録が1名以上	2023年 4月頃	ラボ開始から中学卒業生がまだ出ていない	2

				め未達成	
小中学生の困りごとをキャッチできる機能を強化する	ラボへの参加頻度	本登録から3か月以上続いているか	2021年～実施中	ラボを開始してから継続的に来ている子ども達が居る	2
小中学生と一緒に目標や目的を設定する	ラボ日誌の内容	目標や目的の実現に向けて継続的に学習できているか	2022年9月	小中学生と一緒に目標や目的を設定することができている	2
若者・ラボ卒業生に地域活動へスタッフとして参加してもらう	●参加している若者・ラボ卒業生の声 ●イベントへの参加名簿	●若者・ラボ卒業生自らイベントを企画する ●各イベントにスタッフとして参加した人数	2022年8月～実施中	こども食堂等地域の活動において若者が企画した内容を実現。	1

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 □ 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
アクリル板設置 席配置 マスク着用 検温 換気 消毒

## ③ 広報 (※任意)

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

2.広報制作物等

3.報告書等

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
外部	事業進捗管理	伊井 暁子	ヒューマンワークアソシエーション
外部	事業設計・事業進捗管理	天野 弘章	有限会社 CASE
内部	事業設計・事業進捗管理	谷岡 裕喜	堺市人権協会
内部	事業設計・事業進捗管理	井上 博幹	堺市人権協会
内部	事業設計・事業進捗管理	加藤 拳人	堺市人権協会

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
地域の子どもたちが地域に魅力を感じる	イベント実施後のアンケート	地域に対してプラスに取れるアンケートでの発言を6割程度得る	2022年11月頃	子ども達がラボに参加することで、おとなとの関りが増加し様々なことを話してくれるようになっている。
地域の高校生が地域に差別があることを知っている	人権問題学習実施後のアンケート	地域の高校性が今でも地域に差別があることを知っていることと取れるアンケートでの発言を9割程度得る	2022年内	にしのコラボをスタートして若者が支援者として事業に関わることで地域での活動に参加してくれる機会が増えた。 人権問題学習会を実施することでさらに地域についてまなびを深め高校生たちが自分事として人権問題を考えてくれることが想定できる

小中学校や隣保館に本事業の目的の共有ができています	小中学校や隣保館のラボ(学習支援)に対して正しく認知している場合	職員の半数以上が知っている	2022年 年内	小中学校・隣保館へ活動内容や目的などを共有し、連絡会の設立に向けた相談を実施。その際に、小中学校から、公的機関としてできること等の提案を受けた
小中学校・隣保館との連携が図れ、こどもを見守る体制をとれている	連絡会への協力	協力してくれる団体数	2023年 4月頃	連絡会の立ち上げで課題が見え、現在調整中だが小中学校や隣保館と密に連携を取ることができる体制の構築を行うことができています
小中学生が学校以外で学習する習慣が身についている	ラボへの参加頻度	本登録から3か月以上続いている	達成	現在、学習支援に本登録をしているこども達は欠席することなく続けて参加しています。
地域の幅広い若者のつながりや居場所ができる	ラボへの参加頻度	ラボに本登録している	達成	ラボを開始してから仮登録していたこども達の本登録率は高く、支援者の高校生やおとなとのつながりの構築が出来た。また、居場所としても機能しているように感じ取ることができる発言が参加者から見受けられることができる
小中学生の学習意欲があがる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●こども本人に聞く学習意欲向上度合</li> <li>●小中学校の教師に聞く学習意欲向上度合</li> <li>●保護者に聞く学習意欲向上度合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テストの点数が上がっている(生徒・保護者への聞き取り)</li> <li>●授業態度の向上(教師への聞き取り)</li> </ul>	2023年 4月頃	ラボ参加者からは、テストの点数や普段の学習で分からないこと等を自ら伝えてくれるようになった。学校での学習態度などについては、連絡会が出来ていないため未達成となっている。

ラボ卒業生がボランティアとして地域に関わっている	ラボ卒業生がボランティア登録しているか	1人以上の登録	2023年 4月	2023年3月でラボを開始してから初の中学校卒業生が出るためその際にボランティア登録をしてくれるかどうか。 2023年3月卒業予定の中3のこども達数名からは支援者として関わるという発言が出ている。
小中高生の居場所として機能している	ラボへの参加頻度	本登録から3か月以上 続いている	2023年 4月	高校生については、支援者として継続的に参加しており、他の地域活動にも積極的に参加してくれるようになった。 小中学生については、継続したラボへの参加が見受けられ支援者の高校生や大学生とも良好な関係が築けている



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>主に学習支援を通じて、小学生から大学生までのつながりを構築することができ居場所としても機能していることが見受けられることができるため。</p> <p>ただし、小中学校や隣保館との連携においては公的機関として実施してもらえないことと難しいことの課題が出てきたため、課題の解決にむけ現在調整中の為おおむね達成の見込みとした。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の 適切性	<p>①地域の高校生が地域に差別があることを知っている</p> <p>②小中学生の学習意欲が上がる</p> <p>③小中学生が目標や目的を持ち、学習を継続できる力を持つ</p>	<p>①やや知っている</p> <p>②学習意欲の向上が見受けられる</p> <p>③目標や目的を持ち、学習を継続する努力が見受けられる</p>	<p>①については、高校生が地域に差別があることはうっすらと知っているが自分事としてとらえることができているメンバーはいなかった為、今後、自分事として捉えられるよう導きが必要。</p> <p>②について、学校以外での場所で学習をしている参加者と、習い事にも行っているがラボにも参加しているというこどもが居た。7割の利用者が継続的に参加しており、居場所として機能しているため、高校生や大学生、おとなとのつながりの中で勉強を教えてもらい分からないことができるようになる喜びを感じてもらっていると捉える。</p> <p>③自身で設定した目標や目的の達成に向けどのように進めばいいのか一人では考えることが難しいこどもも支援者のサポートを受けることで小さな目標から大きな目標まで達成するために継続する努力が見受けられる</p>
実施をとおした 活動の改善、 知見の共有	<p>①事業計画の見直し</p> <p>②小中学校や隣保館に本事業の目的の共有</p>	<p>①事業計画の見直しが行えている</p> <p>②概ね目的の理解は得られている</p>	<p>①について、P0 や評価関係者等と会議をもち事業の計画が当初予定通り進めることができているか等を確認し見直しを行った。</p> <p>②について事業の目的や実施状況は伝えることができたが、新たな課題が出てきたため課題の解決に向け現在調整を行っているが各施設ともに本事業の重要性は理解をしてくれている。</p>

<p>組織基盤強化・ 環境整備</p>	<p>①ラボ卒業生がボランティアとして地域に関わっている</p> <p>②若者・ラボ卒業生が学習会や地域活動にスタッフとして積極的に参加している</p>	<p>①支援者獲得が期待できる状況にある</p> <p>②積極的に参加する様子が確認できている</p>	<p>①について、現在は卒業生を輩出していないが2023年3月卒業予定の中3からは、支援者として関わり発言を受けている為、今後も継続して支援者獲得が期待できる</p> <p>②について、2022年10月現在で、ラボに関わる中高生が、こども食堂や地域内の活動に参加してくれるようになっており今後本事業内での企画等も積極的に関わってくれることが想定できる</p>
-------------------------	--	---	---

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

学習支援事業の継続した実施

- ⇒英検3級の目標を立てていた中学2年生が目標達成
- ⇒学習支援に継続してこども達がきている
- ⇒学習支援開始時終了時に学習目標と達成状況を確認

③ 事前評価時には想定していなかった成果

- 中高生の居場所としての機能が想定より早く生まれている
- 隣保館職員のこども達への意識の変化
- 高校生の中で数人差別があることを理解している



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<p>中間評価を行い、事業計画の変更を実施しそれに基づき現在取組中だが隣保館や小中学校との連携において課題が出てきた。課題に対して現在も小中学校と相談を重ねている為。その他の事業については、おおむね変更後の計画通り実施することができている。学習支援事業については、現在参加している中学生などからも高校生になれば支援者側になるとの発言も見受けられるため。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

- 隣保館、小中学校との連携
  - 個人情報共有などの部分で課題が現れたため、現在地域にある仕組みなどでクリアできないか検討
- 地域でこども達を見守るきっかけ作り
  - 上記にあるように現在ある仕組みなどを活用し地域内既存団体との調整を行い、こども達を地域で見守る体制を検討

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

